

# 第81期中間事業報告書

## BUSINESS REPORT

平成16年1月1日から平成16年6月30日まで



サッポロホールディングス株式会社

## Contents

株主の皆様へ	1
連結業績・財務ハイライト	2
特集／協働契約栽培	3
営業の概況	6
グループ概要	9
株式の状況	10
中間財務諸表	11
会社概要	13
アンケート集計	14
トピックス	15

### 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本年上半期の日本経済は、デフレ脱却の兆しや消費低迷の改善が見られるようになり、景気の回復が感じられるようになってまいりました。サッポログループ各社が置かれている酒類、飲料、外食などの業界においては、消費の二極化、カテゴリー間のボーダレス化、嗜好の多様化等がますます顕著となり、お客様が望まれる商品・サービスをいかに的確に捉え、提供するかといった、企業の総合力が試される状況となっております。

サッポログループは昨年7月1日に「純粋持株会社体制」に移行いたしました。以来、酒類、飲料、外食、不動産の主要事業会社は、それぞれの業界で闘える企業を目指して経営改革を実践し、新たなビジネスモデルを模索しております。その結果、当中間期の連結売上高は前年同期比4%増の2,243億円、純利益は黒字に転じての28億円(前年同期は133億円の損失)となり、当初の計画(それぞれ2,220億円・64億円の損失)を大幅に上回る業績を達成することができました。

当社は新体制発足を機に、2006年までの3年間を「生まれ変わる3年」と位置付け、グループ全体の経営目標を定めておりますが、今期はその達成に向けて順調なスタートを切ることができました。生産集中をはじめ、あらゆるもの見直しによるコスト削減によって「経営の基礎体力」が付き、未来へ向かうベースができあがってきたと感じています。引き続きこの好調を維持していくことで、目標達成への手応えを確かなものにしていきたいと思っております。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年9月



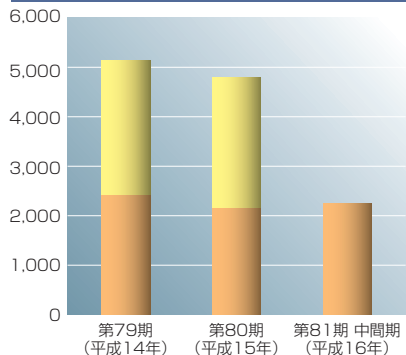
代表取締役社長

岩間辰志

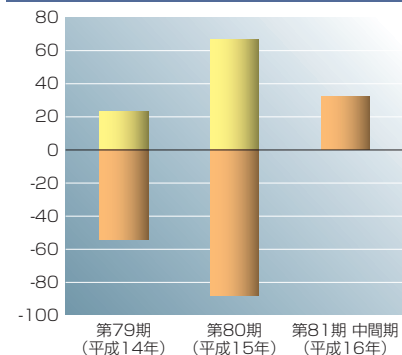
# 連結業績・財務ハイライト

	第79期(平成14年)		第80期(平成15年)		第81期(平成16年)
	通期	中間期	通期	中間期	中間期
売上高(億円)	5,117	2,402	4,795	2,155	2,243
経常利益(△は損失)(億円)	23	△54	67	△88	32
中間(当期)純利益(△は損失)(億円)	11	△62	24	△133	28
総資産(億円)	7,174	7,163	6,306	10,367	6,255
株主資本(億円)	1,065	999	873	925	911
株主資本比率(%)	14.8	14.0	13.9	8.9	14.6
1株当たり株主資本(円)	314.69	295.06	245.80	273.46	256.42
1株当中間(当期)純利益(△は損失)(EPS・円)	3.45	△18.57	6.95	△39.47	8.02

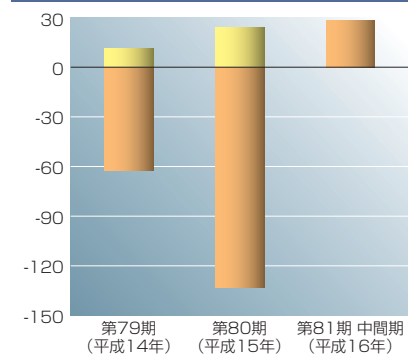
売上高 (億円) ■ 上半期 ■ 下半期



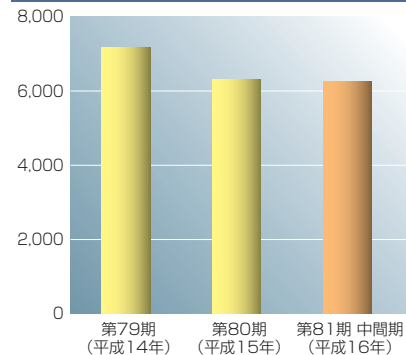
経常利益 (億円) ■ 中間期 ■ 通期



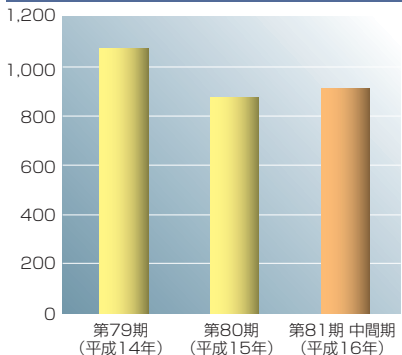
当期純利益 (億円) ■ 中間期 ■ 通期



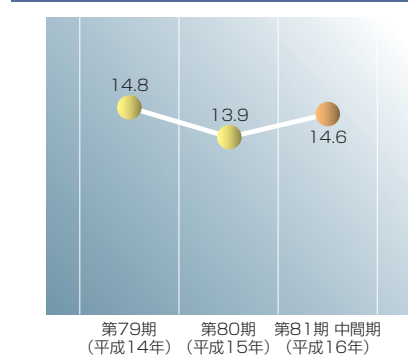
総資産 (億円) ■ 中間期 ■ 通期



株主資本 (億円) ■ 中間期 ■ 通期



株主資本比率 (%) ● 中間期 ● 通期



# 畑から原料づくりにこだわる 「協働契約栽培」の取組み

ビール・発泡酒の主原料である麦芽とホップ。サッポロビールは、この2つの原料づくりに“畑”からこだわりました。安心でおいしい商品をお届けするには、信頼できる原料の確保が欠かせず、良質の素材を生産する農家との「協働契約栽培」がより重要だと考えたのです。

## もう一度、素材へのこだわりを

北海道札幌の地にサッポロビールの前身となる「開拓使麦酒醸造所」が設立されたのは1876（明治9）年、今から128年も前のことです。北海道の大地とそこから生まれる素材にこだわり、良いビールづくりを行うため、麦やホップの育種、栽培から取組んだという記録が残っています。

こうした取組みは、戦後の高度経済成長期の前後まで続きました。国内の生産者を巡回指導することで、サッポロビールは高品質な原料の確保に努めてきたのです。しかし、経済成長によって生まれた農産物の内外価格差によって、その後原料調達そのものが海外に大きく依存するようになりました。

しかし、サッポロビールは、“農業と畑”という原点を決して忘れていませんでした。大麦は群馬県木崎に、ホップは北海道上富良野にそれぞれ試験栽培農場を持ち、研究者たちの成果が蓄積されてきました。

また、オーストラリアのアデレード大学やカナダのサスカチュワン大学に研究者を派遣して大麦の共同研究を行う一方、中国新疆ウイグル自治区で無農薬ホップの自家栽培を試みるようになりました。こうした経験は、やがて“畑”の多くが海外に移ったのなら、現地まで行って原料を見極めるべきだと考える大きな転機を与えました。

「サッポロビールは2006年までに麦芽とホップを100%協働契約栽培にします。」という宣言は、素材を大切にしてきた伝統と取組みの中で復活したのです。

## お客様から“安心”が見える。それが真の品質

消費者の“食”への信頼が大きく揺らぎはじめています。食材の偽装事件などの発生によって、食品表示そのものに対する不信感が広がっています。

そんな中、注目を集めているのが食材の履歴を追跡できるトレーサビリティですが、これも決して万能ではありません。問題が起きたときの追跡は可能であっても、“食の安全”まで保証するシステムではないからです。

“食”を扱う企業は、自らの手でお客様である消費者に、製品の安全、安心、健康などの信頼性について、説明責任を果たさなければならない——そんな時代が目前に迫っています。

サッポロビールは、こうした世界的な“食の安全”に向けた潮流を先取りするため、世界10カ国、約3,000カ所の畑を自らの目で見て、生産者とじかに栽培方法などを話

し合い、厳しい目になかったものだけを買付けすることにしました。

## 世界を巡回指導する14名のフィールドマン

「協働契約栽培」とは、だれが、どこの畑で、どのようにして麦やホップをつくっているかを、はっきり把握することです。ヨーロッパ、カナダ、オーストラリアなど世界の農場に、播種前（種を蒔く前）、収穫前、収穫後と最低年3回以上まわり、ビール・発泡酒の原料となる良質の麦芽約8万6,000トン、良質のホップ約1,200トンを確認します。

この大役を担うのが、現在14名の「フィールドマン」です。生産者とじかにコミュニケーションを取りながら、生産者のパートナーとして優れた原料を育てることが使命です。

しかし、フィールドマンの仕事は言葉で語るほど簡単ではありません。

例えば、「農薬を減らせないか」「環境にやさしい栽培方法





はないか」「もっと品質を上げて欲しい」など、サッポロビールが原料に求める厳しい品質基準と、「多収性」「耐病性」など生産者が望む農業の姿は簡単に一致

しません。粘り強い話し合いで解決策を導き、生産者の納得を引き出すのがフィールドマンの大切な役割です。

ビール・発泡酒に対する豊富な知識と経験に加え、農業に対する深い知識と愛情が欠かせません。

### 「協働契約栽培」原料のみを使用した「麦100%生搾り（発泡酒）」を発売

2004年は「協働契約栽培」によって生まれた原料を麦芽で約15%、ホップで約20%使用しています。

すでに3月には、「協働契約栽培」原料のみを使用した第1号の製品として、「麦100%生搾り（発泡酒）」を発売



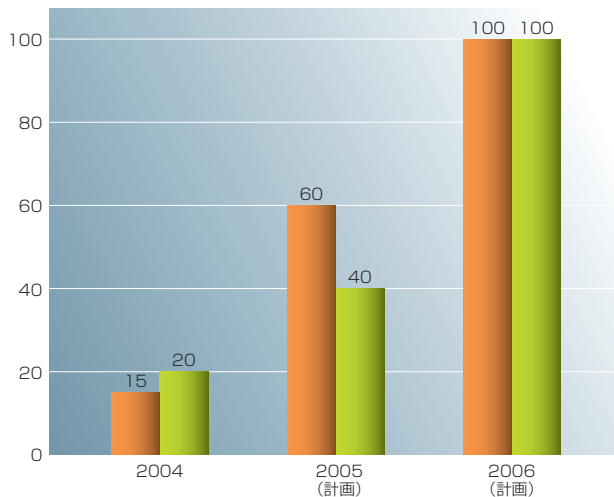
しています。原料となる麦芽・ホップ・大麦は、ドイツ、オーストラリア、中国、カナダ、日本など世界各地の生産者と協働して育て上げたもので、収穫量や収穫時期によって最適な産地選択を行っています。

生産者の顔が見える原料でつくった「麦100%生搾り（発泡酒）」は、まろやかなコクと生搾りならではの爽やかなのどごしに仕上がりました。

サッポロビールは、2005年までに収穫される大麦とホップを100%「協働契約栽培」にし、2006年に使用する麦芽とホップのすべてを「協働契約栽培」原料とするため、全力をあげています。



「協働契約栽培」原料の使用比率 麦芽 (orange) ホップ (green) (%)



# 営業の概況

当中間期の業績は、酒類事業の売上数量増に加え各事業会社における持続的な体質改善への取組みがコスト削減等に結実し、売上高2,243億円（前年同期比87億円、4%増）、営業利益61億円（前年同期比112億円増益）、経常利益32億円（前年同期比121億円増益）、中間純利益28億円（前年同期比162億円増益）となり、前中間期の業績を大幅に上回ることができました。

事業セグメント別の概況は以下に記載のとおりです。

## 酒類事業

ビール事業では、発泡酒増税による総需要減少傾向の中、以下の4価格帯別戦略を展開しました。

「サッポロ生ビール黒ラベル」は、業務用を中心に拡販を進めましたが、ビール総需要低迷に影響され前年同期比91%となりました。

「エビスビール」は、独自のブランド価値を強化するとともに「エビス<黒>」との相乗効果もあり、エビスブランド合計では前年同期比109%と伸長を果たしています。

発泡酒「北海道生搾り」は、「2006年までに麦芽とホップを100%協働契約栽培にする」というコーポレートブランド戦略の旗艦ブランドとしてブランド強化に努めた結果、新商品「サッポロDraft One（ドラフトワン）」の影響を最小限に食い止め、ブランド全体では前年同期比81%と健闘しました。3月新発売のファミリーブランド「麦100%生搾り」も上期148万函と好調に推移しています。

本年2月に全国発売した「サッポロDraft One（ドラフトワン）」は、エンドウたんぱくを使用する新製法により実現した「かつてないスッキリ感」により上期800万函の大ヒットとなりました。年間販売計画は、発売当初1,000万函、4月1,400万函、7月1,700万函、と2度の上方修正を行いました。

上記の結果、ビール・発泡酒・ドラフトワン合計の売上数量は、前年同期比109%となり、総需要が98%と低迷する中、大幅な伸長を果たしました。

国際事業では、アイルランド、カナダ、中国、台湾で現地生産を行っています。北米市場で人気の「シルバーカップ」生産がカナダ・スリーマン社ではじまり、北米市場での現地供給体制が整いました。

ワイン事業では、国産フラッグシップブランド「グランポレール」で品質をアピールする一方、国産低価格帯商品「うれしいワイン」「クリアドライ」のダブルブランドがこの分野のトップシェア商品となっています。輸入ワインは、フランス「ラ・キューベ・ミティーク」をはじめとするパワーブランドにより中高級品の拡販を進めています。ワイン総需要が前年を下回る中、当社ワイン売上数量は総需要を超える水準で推移しています。

アグリ事業では、世界各地で大麦やホップの育種開発を行う一方、品種選抜、技術指導等で高品質な原材料の安定調達を図っています。コチョウラン事業では優れた育種技術を活かし、クローン苗の出荷で業界No.1の地位を占めています。プラント事業では、ビール製造技術で培った精密

る過技術などのサニタリーエンジニアリング技術を中心に展開しています。酵母・健康食品事業では、主力である乾燥酵母や酵母エキスに加えて、健康食品など新たな商品開発を進めています。

以上の結果、酒類事業の売上高は1,627億円（前年同期比69億円、4%増）、営業利益は42億円（前年同期比72億円増益）となりました。

## 飲料事業

飲料事業では、事業基盤を一層強固なものにするべく、「玉露入りお茶」をはじめとする基軸ブランドの強化と、付加価値の高い新製品の拡販による新規需要の創出に取り組ましました。

「玉露入りお茶」は2月にデザインのリニューアルを実施し、同時に消費者向けキャンペーンを行いご好評をいただきました。これらの施策に加えて取扱店の拡大に注力した結果、前年を上回る実績を残すことができました。

「がぶ飲みシリーズ」も3月にデザインのリニューアルを実施し、順調に推移しています。

新製品については、北海道産の牛乳のみを使用したプレミアムブランド「北海道シリーズ」が、味覚面で高い評価をいただき実績に貢献しました。

また、無香料・無着色で果肉の食感が楽しめる果汁飲料「美味しぼりシリーズ」に、「つぶたっぶり温州みかん」「あらごしパイナップル」の2品を追加発売し、大きな成果を上げることができました。

以上のとおり積極的なマーケティング活動を展開するとともに、販売費の効率的な使用に努めた結果、飲料事業の売上高は312億円（前年同期比10億円、3%増）、営業

損失は2億円（前年同期比11億円増益）となりました。

## 外食事業

外食業界は昨年秋以降回復傾向にありますが、依然として店舗数の増加と既存店売上高の前年割れが続いています。外食業界の中でも特に酒類売上比率の高い業態でこれらの傾向が強く、引き続き厳しい環境下にありました。

このような中で、「**ビヤホールの復活**」をテーマとした既存店の収益回復と、新業態店舗を中心とする新規出店による売上高の拡大に努めました。

既存店につきましては、定番メニューの品質向上や産地直送の食材を使用した高品質な料理の提供など、低価格な居酒屋とは異なるお客様のニーズに焦点を絞込んだ差別化を推進しました。その結果、優良な立地にある大型店を中心に回復が顕著となり、既存店の前年割れに歯止めをかけることができました。

新規出店では、「かこいや」と「**ガストロバブ・クーパーズ**」を東京・丸の内に出店するなど4店舗を出店し、売上高の拡大を図りました。

一方、受託店舗を中心に10店舗を閉鎖しましたので、当中間期末の店舗数は217店になりました。

以上の結果、外食事業の売上高は128億円（前年同期比1億円、1%減）、営業損失は1億円（前年同期比5億円増益）となりました。

## 不動産事業

2003年問題といわれた東京・都心部でのオフィスビルの大量供給は一段落しましたが、賃料水準は低下傾向にあり、

不動産市況全体としては依然厳しい環境下にありました。

このような中で、平成6年に開業した中核事業である**「恵比寿ガーデンプレイス」**は、本年10周年を迎えますが、多彩な機能をもつ複合施設と緑豊かな環境、さらには安全と安心を心がけた管理が、開業以来、各方面から高い評価をいただいています。

札幌地区では新たな商業施設の開業が続いておりますが、**「サッポロファクトリー」**では、さまざまなイベント企画を展開するなど、たくさんのお客様においでいただけるよう鋭意努めています。

そのほか、銀座4丁目交差点に立地する**「サッポロ銀座ビル」**などの保有物件の賃貸事業は、堅調に推移しています。

不動産事業の売上高は109億円（前年同期比3億円、3%増）、営業利益は30億円（前年同期比8億円、38%増）となりました。

## その他の事業

ホテル事業では、「新御三家」としてお客様より高い評価をいただいている**「ウェスティンホテル東京」**が本年10周年を迎えます。客室、宴会、レストラン各部門にてバラエティ豊かな各種プランやフェア、イベントを企画し販促に努めてきた結果、売上高は各部門とも、イラク戦争やSARS騒動で落込んだ前年を大きく上回ることができました。

その他の事業の売上高は64億円（前年同期比4億円、8%増）、営業損失は1億円（前年同期比2億円増益）となりました。

## ●通期の見通し

### 【酒類事業】

ビール事業では、7月1日に年間販売計画を6,900万函から7,400万函（前年比110%）に上方修正しました。内訳では、**「ドラフトワン」**を1,700万函と大幅に上方修正する一方で、**「黒ラベル」「エビス」「北海道生搾り」**を若干下方修正して確実に達成しうる計画にしています。

ビールが長期低迷トレンドにあり、発泡酒に増税ダメージが残るため、夏場の好天という期待要因を加味しても年間総需要は前年水準の横ばいないし微増にとどまると推定されます。こういった環境と件はありますが、独自の4価格帯別戦略を活かして、上記の修正計画を達成できるものと考えています。

### 【飲料事業】

飲料市場は、景気の回復に加えて、夏場の好天も期待されることから、通期でも大きく伸長すると見込まれます。当社では基軸商品である**「玉露入りお茶」**の一層の強化のため、新製品の投入等を積極的に行います。またアメリカの有力果汁ブランドである**「オーシャンスプレー」**製品の独占販売権を取得し、果汁ジャンルでの基盤をより強固なものにしていきます。ミネラルウォーターについても、ドイツの発泡性ミネラルウォーター**「ゲロルシュタイナー」**の導入によるラインアップ強化を図ります。

### 【外食事業】

外食事業では、既存店売上高の回復傾向をさらに確実なものとするため、他社との商品やサービスの差別化を図っていくとともに、新業態店舗の開発と出店による企業規模の拡大を推進していきます。

また、仕入先の集約と食材アイテムの絞込みによるコスト削減とともに、食の安全性確保のためにトレーサビリティの向上に努めていきます。

これらに加え、昨年実施した不採算店舗の閉鎖や業態転換などの収益構造改革の効果と、夏季需要期の売上増などが業績に寄与する見通しです。

【不動産事業】

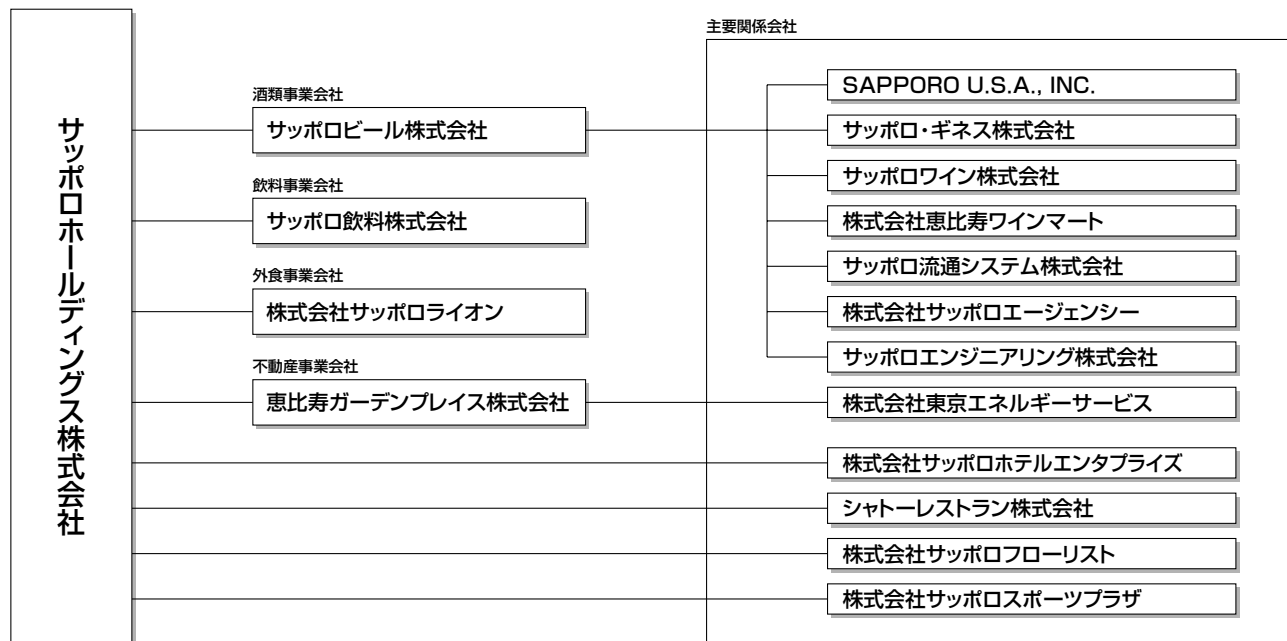
「恵比寿ガーデンプレイス」「サッポロファクトリー」その他の賃貸事業、いずれの事業においても引き続き売上増進と

収益向上に努め、経営基盤の強化を図っていきます。

【その他の事業】

ホテル事業では、10月に**エグゼクティブ・クラブ・ラウンジ**を開設するとともに客室の一部改装を実施し、顧客満足度向上に努め新規顧客獲得増による客室稼働率アップを図ります。また、10周年記念フェアをはじめ各種販促策を効果的に実施し、宴会、レストラン部門の売上拡大を目指します。

グループ概要

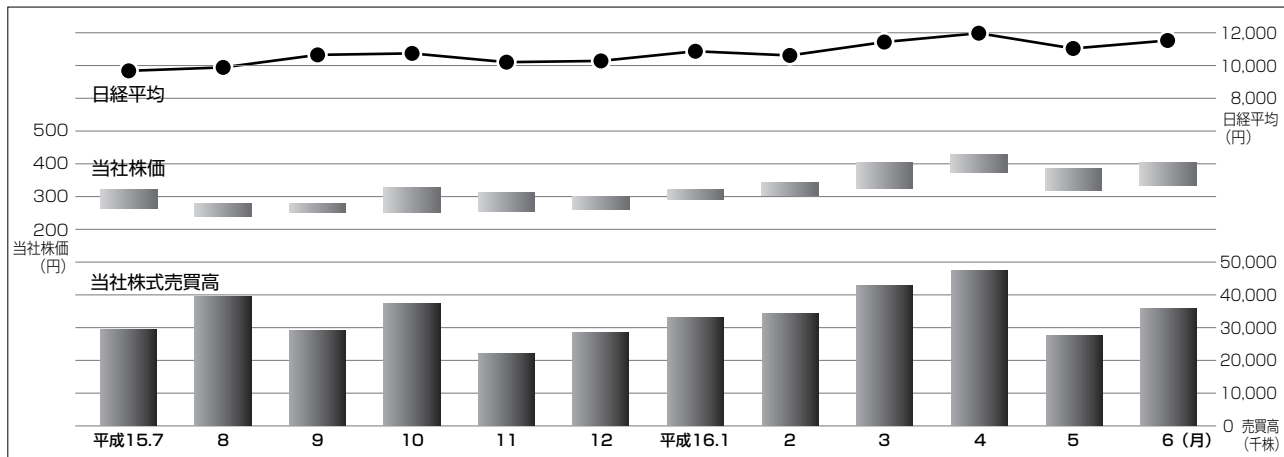


当社グループは、当社、子会社30社および関連会社14社で構成されております。

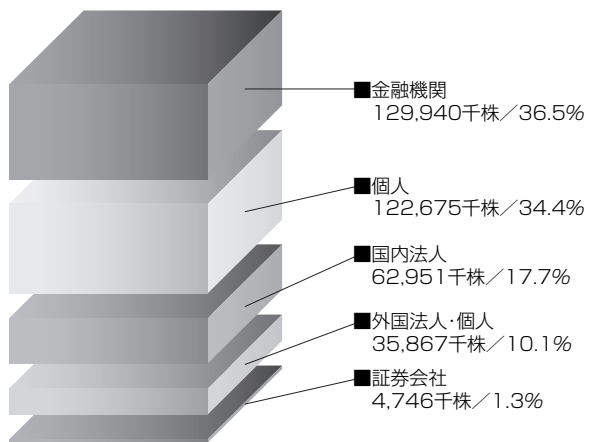
●発行済株式総数……………356,179,485株

●株主数……………68,032名

●株価および株式売買高の推移 (東京証券取引所市場第一部におけるものです。)



●株式分布状況



●大株主上位10名およびその持株数

順位	株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
1	日本生命保険相互会社	17,402	5.00
2	日本トラスティサービス信託銀行株式会社 (信託口)	12,005	3.45
3	明治安田生命保険相互会社	10,434	3.00
4	みずほ信託銀行株式会社	10,162	2.92
5	農林中央金庫	9,375	2.69
6	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,929	2.56
7	株式会社みずほコーポレート銀行	8,698	2.50
8	丸紅株式会社	8,246	2.37
9	モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インク	7,899	2.27
10	大成建設株式会社	7,000	2.01

中間連結貸借対照表(要旨) 6月30日現在

(単位:億円)

科目	平成16年度 (当中間期)	平成15年度 (前中間期)
<b>資産の部</b>		
流動資産	1,361	4,881
現金・預金	219	3,752
受取手形・売掛金	680	655
たな卸資産	276	307
その他	183	166
固定資産	4,893	5,486
有形固定資産	4,213	4,787
建物・構築物	2,689	3,044
機械装置・運搬具	548	672
土地	911	1,003
その他	63	67
無形固定資産	28	32
投資等	652	666
資産合計	6,255	10,367
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,949	6,019
支払手形・買掛金	356	352
短期借入金等	672	4,707
未払酒税	282	299
その他	638	660
固定負債	3,394	3,379
社債	997	997
長期借入金	1,699	1,689
受入保証金	369	378
その他	328	314
負債合計	5,343	9,398
少数株主持分	—	43
<b>資本の部</b>		
資本金	438	438
資本剰余金	362	322
利益剰余金	63	152
その他有価証券評価差額金	53	15
為替換算調整勘定	△3	△2
自己株式	△2	△0
資本合計	911	925
負債・少数株主持分・資本合計	6,255	10,367

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 平成15年度中間期 3,647億円  
平成16年度中間期 3,498億円

●Point1

前期に生産性向上を図るため、生産拠点の集約を行ったことに伴い減少。

●Point2

前期グループファイナンス移行資金の借入3,500億円含む。

●Point3

昨年7月にサッポロライオン社を100%子会社化したことに伴い減少。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) 1月1日~6月30日

(単位:億円)

科目	平成16年度 (当中間期)	平成15年度 (前中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	57	△29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41	△52
財務活動によるキャッシュ・フロー	117	3,733
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増加額	133	3,651
現金及び現金同等物の期首残高	84	99
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1	0
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	219	3,751

## 中間連結損益計算書(要旨) 1月1日~6月30日

(単位：億円)

科目	平成16年度 (当中間期)	平成15年度 (前中間期)
売上高	2,243	2,155
売上原価	1,553	1,569
販売費及び一般管理費	627	637
営業利益又は損失(△)	61	△51
営業外収益	11	10
営業外費用	39	47
経常利益又は損失(△)	32	△88
特別利益	8	19
特別損失	8	60
税金等調整前中間純利益又は損失(△)	32	△129
法人税・住民税・事業税	4	2
法人税等調整額	△0	7
少数株主損失	0	5
中間純利益又は損失(△)	28	△133

(単位：億円)

### ●セグメント別営業利益

	平成16年度 (当中間期)	平成15年度 (前中間期)
酒類事業	42	△29
飲料事業	△2	△14
外食事業	△1	△6
不動産事業	30	22
その他	△1	△3
共通他	△7	△19

### ●Point4

「サッポロドラフトワン」の好調及びコスト削減等の奏功により増収・増益。全事業セグメントにおいて営業利益増益。

## 単体中間貸借対照表(要旨) 6月30日現在

(単位：億円)

科目	平成16年度 (当中間期)	平成15年度 (前中間期)
<b>資産の部</b>		
流動資産	932	4,907
固定資産	3,590	5,328
資産合計	4,522	10,235
<b>負債の部</b>		
流動負債	697	5,895
固定負債	2,707	3,328
負債合計	3,405	9,224
<b>資本の部</b>		
資本金	438	438
資本剰余金	364	322
利益剰余金	299	235
株式等評価差額金	16	15
自己株式	△2	△0
資本合計	1,117	1,010
負債・資本合計	4,522	10,235

## 単体中間損益計算書(要旨) 1月1日~6月30日

(単位：億円)

科目	平成16年度 (当中間期)	平成15年度 (前中間期)
営業収益	16	1,735
営業費用	8	1,773
営業利益又は損失(△)	8	△38
営業外収益	33	12
営業外費用	26	45
経常利益又は損失(△)	15	△70
特別利益	4	19
特別損失	—	54
税引前中間純利益又は損失(△)	20	△105
法人税・住民税及び事業税	4	△1
法人税等調整額	0	5
中間純利益又は損失(△)	15	△110

- 商号 サッポロホールディングス株式会社
- 設立 昭和24年9月1日(創業明治9年)
- 本社 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号  
(恵比寿ガーデンプレイス内)
- 電話 03(5423)7209(グループ経営戦略部)
- FAX 03(5423)2048(同)
- 資本金 43,831,645,301円
- 事業内容 持株会社
- 発行済株式数 356,179,485株
- 従業員数 28名
- ホームページアドレス <http://www.sapporoholdings.jp/>

## ●役員

- 代表取締役社長 岩間 辰志
- 代表取締役専務 齊藤 慎二
- 常務取締役 芦部 之夫
- 常務取締役 村上 隆男
- 取締役 衛藤 博啓  
みずほ信託銀行株式会社 顧問
- 常勤監査役 野口 聡
- 監査役 岡本 囀衛  
日本生命保険相互会社 専務取締役
- 監査役 辺見 紀男  
弁護士
- 監査役 甲斐 和典

## ●グループ執行役員兼事業会社社長

- 酒類事業会社 福田 貞男
- 飲料事業会社 岡 俊明
- 外食事業会社 山崎 範夫
- 不動産事業会社 渡辺 康彦

会計監査人／新日本監査法人  
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

## INFORMATION

単元未満株式の整理につきましては、従来からの単元未満株式の買取請求制度に加えて買増請求制度もご利用いただけるようになりました。

### ①買増請求制度

単元株式(1,000株)に不足する数の当社株式を当社に対してご請求いただき、当社が保有する自己株式を市場価格にて株主様に売却する制度です。お手続きには、株券(株券が発行されているとき)、単元未満株式買増請求書、買増代金、手数料及び消費税が必要です。

### ②買取請求制度

ご所有の単元未満株式の売却をご希望の場合、当社に対してご請求いただき、当社が市場価格にて株主様から当社株式を買取る制度です。お手続きには、株券(株券が発行されているとき)、単元未満株式買取請求書、手数料及び消費税が必要です。

いずれのご請求も、当社の名義書換代理人が窓口となります。

お手続き方法の詳細等は、名義書換代理人にお問合せください。

### ●お問合せ先

東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社証券代行部  
電話03-5213-5213(代表)

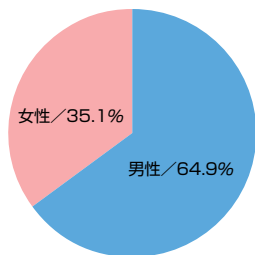
なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は上記でのお取り扱いはできませんので、お取引引きの証券会社等へお問合せください。

前号（第80期事業報告書）でアンケートをお願いいたしましたところ、5,000通を上回るご回答がありました。集計結果は次のとおりです。毎度多数のご回答を賜り、誠にありがとうございました。

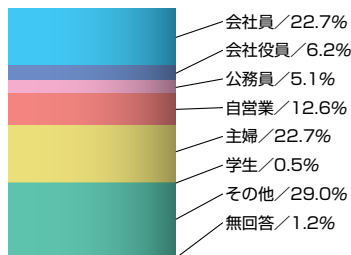
●アンケートのご回答者の中から厳正な抽選の結果、コチョウランを10名様に、黒ラベル缶1ケースを20名様に6月中旬にお届けしました。

## 1. サッポロホールディングスの株主様像

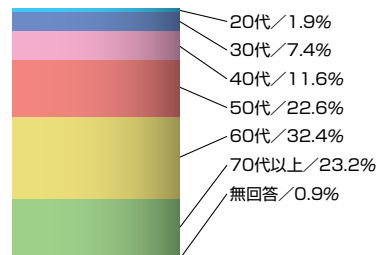
男女比



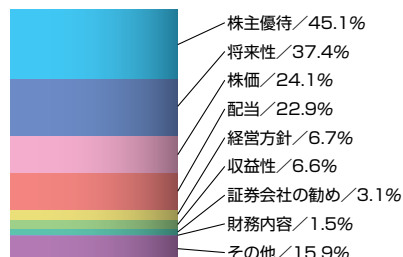
ご職業



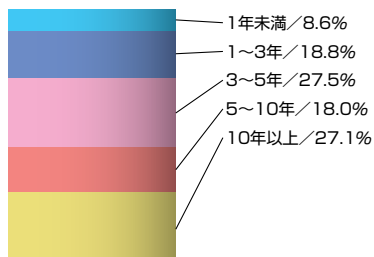
ご年齢



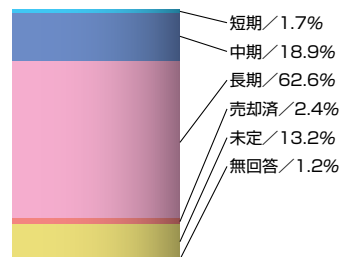
購入理由（複数回答あり）



保有年数



今後の保有方針



## 2. 株主様の質問にお答えします。

**Q1**：経営計画の進捗状況について教えてください。

**A1**：当社は目標とする経営指標を、「2006年に「投下資本事業利益率\*5.0%」「金融負債残高2,900億円」としています。本年は、投下資本事業利益率は4.7%を確保し、金融負債残高は3,104億円まで削減できる見込みであり、目標に対して順調に進捗しています。\*投下資本事業利益率=事業利益（経常利益+支払利息）÷投下資本（株主資本+金融負債）

**Q2**：グループ経営の責任体制について教えてください。

**A2**：各事業会社は経営改革を実践し、新たなビジネスモデルを模索しており、サッポロホールディングスの社長と各事業会社の社長はコミットメント目標に対する契約を締結して責任の所在を明確にしています。

### 第三の生「ドラフトワン」が1,000万ケースを突破

2004年2月に全国発売された「サッポロドラフトワン」が8月2日で当初の年間目標であった1,000万ケースを突破しました。原料に麦芽も麦も使用せず、エンドウたんぱくを使用したことで実現した「スッキリ」とした味わいと、350ml缶で125円（参考小売価格：消費税抜き）という新価格が好評で、ビールや発泡酒とは異なる「第三の生」として家庭用市場で新たな定番商品になりました。

#### 【ドラフトワンの歩み】

平成15年

9月17日 九州地区（福岡・佐賀・長崎・大分）で先行発売。

10月15日 10万ケースを突破。年内目標17万ケースを22万ケースに上方修正。

平成16年

2月 4日 販売地域を全国に拡大。

2月 9日 本年の累計が100万ケースを突破。

4月 1日 本年の累計が300万ケースを突破。年内目標1,000万ケースを1,400万ケースに上方修正。

5月 7日 本年の累計が500万ケースを突破。

6月16日 本年の累計が700万ケースを突破。

6月30日 本年の累計が800万ケースを突破。

7月 1日 年内目標1,400万ケースを1,700万ケースに2度目の上方修正。

8月 2日 本年の累計が1,000万ケースを突破。



## 米国No.1輸入ワイン「イエローテイル」の国内販売権を取得



米国市場で輸入ワインNo.1の販売実績をもつ豪州ワイン「イエローテイル」の国内独占販売権を取得し、2004年9月8日から全国一斉に発売しました。

「イエローテイル」は、豪州のカセラ・ワインズ・エステート社が2000年に発売した新ブランドで、商品名はカンガルーの一種ワラビーの愛称にちなんでいます。

サッポロビールが日本で販売するのは「イエローテイル カベルネ・ソーヴィニヨン (赤)」「イエローテイル シラズ (赤)」「イエローテイル シャルドネ (白)」の3品種で、参考小売価格は1,000円とお求めやすくなっています。

「イエローテイル」の人気は、果実のおいしさをストレートに表現した“シンプルで、自然な味わいが感じられる味覚設計”にあるといわれており、わが国でもカジュアルなワインの楽しみ方が定着するのではと期待されています。

## 米国の有力果汁ブランド「オーシャンズプレー」と販売提携

オーシャン・スプレー・クランベリー社と、「オーシャンズプレー」ブランド飲料の日本国内における独占販売契約を結び、9月27日から発売します。

オーシャンズプレー社は、1930年創業のアメリカとカナダの約900のクランベリー\*および柑橘類の生産者による協同組合であり、果実、加工品の販売と並んで、果汁飲料の製造・販売を行っています。特にクランベリー果汁商品については、アメリカでNo.1の実績を誇っています。

サッポロ飲料では価値のある海外有力ブランドの導入による商品ポートフォリオの強化を進めており、オーシャンズプレー社の日本市場における販路拡大戦略と合致したことで、今回の提携が成立しました。

\*クランベリーとは：ブルーベリーと並ぶ北米原産のフルーツ。クランベリーに含まれるプロアントシアニジンの抗酸化力はビタミンCの20倍、ビタミンEの50倍といわれており、アメリカでは、さまざまな症状の予防・改善に関する研究が盛んに行われています。



## 缶入りスパークリングワイン「シングルメイド」を近畿圏で先行発売



果汁をお酒にすることにこだわった缶入りのスパークリングワイン「シングルメイド」を、9月29日から近畿2府4県で先行発売します。

チューハイやカクテルの枠にとらわれず、当社の強みである醸造・発酵技術を活かし、お酒に果汁を混ぜるという製法ではなく、「果汁そのものをお酒に」しました。

グレープフルーツ、レモンに加え、女性に人気が高いアップルの3種類を取り揃えました。果汁を低温で発酵させ、すっきりと上品な味わいと、酸素との接

触を極限まで排除する「フレッシュキープ製法」により実現した“素材が持つ味わい”が特徴です。

## サッポロライオンチェーン 新規出店



クーパース

### 話題のスポット、丸の内に2店同時出店

再開発が進み、最も注目を浴びている街のひとつ、東京・丸の内に「くつ炉ぎ・うま酒かこいや」と「ガストロパブ・クーパース」の2店舗を4月16日に開店しました。

「かこいや」は素材にこだわった料理と、豊富な焼酎や地酒、そして古民家をほうふつとさせる空間が年齢を問わずご好評いただいています。

「ガストロパブ」とは、気軽に立ち寄れる雰囲気はそのままに、しっかりとしたディーナーが楽しめる新しいパブスタイル。ロンドンで流行のこのスタイルをいち早く取り入れた「クーパース」は、ミッドセンチュリー系の家具を配したカジュアルな雰囲気と、ハイクオリティなメニューがお手頃な価格で楽しめるとあって、若い女性を中心に人気を博しています。

### 新千歳空港に新業態を含む2店を出店

4月21日、北海道・新千歳空港内に「ピヤダイニングライオン」と「韓国食道サジャガーデン」の2店舗を開店しました。「サジャガーデン」はサッポロライオンチェーンでは初めての韓国料理店です。「新感覚モダンコリアン」をテーマに、本格的な韓国家庭料理と日本人向けにアレンジを加えた創作韓国料理を提供しています。空港というさまざまな人々が集まる環境で、幅広い世代のお客様からご好評いただいています。なお「サジャ」は韓国語で「ライオン」を意味しています。



サジャガーデン

## 恵比寿ガーデンプレイス10周年で多彩なイベントを開催



恵比寿ガーデンプレイスが10月で10周年を迎えます。10周年を飾る記念すべきメイン・イベントとして、10月9日(土)～10日(日)に「sonarsound tokyo 2004」を開催することになりました。sonarとは、スペインのバルセロナで毎年6月に開かれる、アドヴァンスド・ミュージック(前進しつづける未来音楽)とマルチメディア・アートの国際フェスティバル、ミュージックとアートの熱気あふれる共演が見ものです。このほか、J-WAVEが主催するボッサノヴァライブ「TOKYO BOSSA NOVA 2004」(9月18日～10月3日の土日祝日の8日間)や、10種類の豪華賞品がスクラッチカードで当たるプレゼントキャンペーン、おいしいデザートが勢ぞろいするアニバーサリー・スイーツフェアなども開催される予定です。

## 『社会・環境レポート2004』を刊行

サッポログループ『社会・環境レポート2004』を今年も刊行しました。グループの再編に伴い、今回からは持株会社であるサッポロホールディングスが刊行主体となり、主たる事業会社であるサッポロビール、サッポロ飲料、サッポロライオン、恵比寿ガーデンプレイスを対象範囲として作成しました。

2004年版では、「持続可能な社会」の実現を目指す立場から、「CSR(企業の社会的責任)」についても認識し、名称を「社会・環境レポート」として、「コーポレートガバナンス・企業倫理」、協働契約栽培の取組みを中心とした「製品の品質・安全管理」、「働きがいのある職場づくり」などの「社会的な取組み」の報告を一層充実させました。

環境保全の取組みでは、「地球温暖化防止」の成果をはじめとして「水資源の保全」「副産物・廃棄物の排出抑制」などについて掲載しています。

サッポログループでは、株主様、お客様、従業員などさまざまなステークホルダー(利害関係者)との良好な関係が、企業の重要な経営資源であると認識し、事業活動が与える地球環境への負荷低減を重要な経営課題であるとしてとらえています。

なお、このレポートの情報はインターネットホームページでもご覧いただけます。

<http://www.sapporoholdings.jp/ecology/index.html>





サッポロホールディングス株式会社  
<http://www.sapporoholdings.jp/>



サッポロビール株式会社  
<http://www.sapporobeer.jp/>



サッポロ飲料株式会社  
<http://www.sapporo-inryo.jp/>



株式会社サッポロライオン  
<http://www.ginzalion.jp/>



恵比寿ガーデンプレイス株式会社  
<http://www.gardenplace.co.jp/>

## 株主メモ

決算期	12月31日
配当金受領の株主確定日	12月31日および中間配当を実施するときは6月30日
定時株主総会	3月下旬
基準日	12月31日そのほか臨時に必要あるときは、あらかじめ公告
株式取扱手数料	名義書換/無料。新株交付/新券1枚につき印紙税相当額。分割、併合および満欄による再発行は無料。
名義書換代理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社本店証券代行部
郵便物送付/電話お問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社証券代行部 電話03-5213-5213 (代表)
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本支店 専用ホームページ“お手続き内容”で一部届出用紙の出力ができます。 <a href="http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/">http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/</a>
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞 (但し、決算公告はホームページ)



# SAPPORO